

日本社会福祉学会 大会のあり方検討委員会（中間報告）

◆検討事項

大会のあり方検討委員会の設置について

春季大会（総会開催）、秋季大会（研究大会）と分けて2期が経過したが、両方とも参加者数が減少。（かつて1,300人規模だったが、現在800人前後）大会の求心力が低下している。また研究報告の質の低下への懸念がある。

- ①会員にとって魅力ある大会にしていくための改善策。
- ②研究水準を高めていくための改善策。
- ③大会開催校の負担軽減と会員サービスの充実をどうしていくか。

◆大会のあり方検討委員会 6名

委員長 原田正樹（研究担当理事）

委員 山野則子（研究担当理事）、倉田康路（研究担当理事）

山本美香（東洋大学）、大谷京子（日本福祉大学）、木下武徳（立教大学）

◆検討の全体スケジュール

第5期の任期中に改革案をまとめ、2017年総会で中間報告、2018年総会で審議か報告。改善できるものについては2019年度より実施。

◆会員アンケートの実施について

筆記アンケート（第64回大会の参加者対象）

回答 175 通（会員 85.1% 非会員 14.9%、
大学等 65.7% 学生 16.0% 福祉現場 9.7%）
毎年参加している 36.7%
過去3年間で2回参加 31.3%

webアンケート（全会員に対してのメールアンケート）

回答 474 通（大学等 72.6% 学生 6.5% 福祉現場 17.7%）
毎年参加している 38.3%
過去3年間で2回参加 16.3%
過去3年間で0回 45.5%

学会の所属数

	度数	%	有効%
本学会だけ	39	8.2	8.3
他学会1つ	67	14.1	14.2
他学会2つ	94	19.8	19.9
他学会3つ	79	16.7	16.7
他学会4つ以上	193	40.7	40.9
無回答	2	0.4	
合計	474	100.0	100.0

大会への参加理由

重視している点

- 研究上の新しい知見や情報が必要だから
- 大会のテーマ企画に関心があったから

重視されていない点

- 会員としての義務
- 会場までのアクセス、経費（大学教員と学生とは異なる）

自由意見として（主な意見）

テーマ

- ①本質的社会福祉の理論課題について継続的に議論することが必要
- ②学会として政策提言をしていけるような、能動的アクションを伴う課題設定

特別課題セッション

- ①質の向上（テーマ研究の継続、課題設定方法の工夫）
- ②会員公募ではなく、テーマ設定をした方がいいのではないか。

ワークショップの導入

- ①研究方法などのワークショップ
- ②テーマに対してのラウンドテーブル形式
- ③国際情報や海外研究の研究交流

分科会

- ①質の向上：査読制度の導入、フルペーパー提出が必要ではないか。
地方部会からの推薦を得た者の報告。
当日配付資料の事前審査。
- ②分科会の分類・構成：分野横断的テーマによる再編性、
社会福祉学会としての固有性（既存学会との区別がつかない）
- ③議論の深化：1つの報告・討議の時間を長くする。
司会者・統括者の選定の基準を明らかにする。
- ④大学院生用の機会設定：教育分科会として別に設定する。
- ⑤非会員の連名発表を認められないか。

ポスター報告

- ①議論を活性化させる工夫

会員サービス

- ①託児サービス
- ②学生、シニア会員用料金
- ③バリアフリー（情報保障、会場案内、アクセス）
- ④事前参加申込みの締め切りが早い。紙媒体の冊子の方がよかった。

情報交流会

- ①若い会員等は参加しにくい。
- ②ランチセッションなどの工夫ができないか。

開催校、開催時期

- ①会場を民間のホール等にして固定化できないか。
- ②開催時期が開催校の都合で毎年変更されるのは困る。
- ③参加費を高くしても、業者に委託した方がいいのではないか。
- ④開催校の会員には本当に感謝したい。そうした意識が低下していないか。

以上